

# 地域志向特定プログラム

—地域に貢献する人材育成を目指し、学習や体験を行う—

本学は 2015 年度から 2019 年度の 5 年間、文部科学省から「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の実施校に選定され、地方への人の集積を目的に、広島広域都市圏の市町に尾道市を加えた 25 の自治体や地域の企業、大学と連携して、地域に定住し、貢献していく人材を育成するプロジェクトを進めてきました。

※COC はセンター・オブ・コミュニティの略称



地域を拓くなりわいを知る（広島県世羅町）



空き家再生から尾道の魅力と課題を知る（広島県尾道市）

地域社会の発展には若い世代の力が不可欠です。公立大学である本学にとって、地域に定着し貢献する学生を育成することは重要な使命となっています。

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を契機として始めた「地域志向特定プログラム」は、1、2年次の共通教育として、地域課題演習、地域再生論入門、広島の観光学、広島の産業と技術、などを履修し、2、3年次の専門教育では学部ごとに地域に関連した科目や地域実践演習が組まれています。さらに、4年次で地域をテーマにした論文、研究、制作に取り組みます。プログラムの単位取得者には「ひろしま地域リーダー」の称号が授与されます。

このプログラムにより、地域の特性や課題を理解し、解決方法を総合的に考え、ネットワークを形成・調整し、専門性を効果的に発揮するという能力の育成を目指しています。



食と農、里山ライフスタイルを知る（広島県安芸高田市）



地域課題演習・合同発表会